

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	令和8年3月31日 (第1回)
目標年度	令和14年度
市町村名 (市町村コード)	愛川町 144011
地域名 (地域内農業集落名)	三増

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	99.5 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	66.9 ha
② 田の面積	0 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	98.9 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	36.3 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	36.3 ha
(参考) 区域内における70才以上の農業者の農地面積の合計	- ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	- ha
(備考) ・⑤については、特定することが困難なため④と同面積とした。	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。
 2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。
 3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。
 4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。
 5:(参考)の区域内における70才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。
 6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

当該地域の農業の現状については、耕種農業では少量多品目の露地栽培が中心で、有機質に富む農地が多いことから、有機農業や自然農法を志向する農業者も増えている。
 また、畜産業においては、養鶏(採卵)や養豚等が展開されている。
 こうした現状下で、所有者が貸し付ける意向のある農地面積(36.3ha)のうち、実際に利用権設定されているのは(32.6ha)であることから、今後利用可能な農地が(3.7ha)ある。
 今後、高齢化や人口減少に伴い、耕作放棄地の増加が見込まれることから、新たな担い手の確保が必要となる。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

有機農業に取り組む農業者と従来からの慣行農業に取り組む農業者が混在しているため、両者に影響が及ばない営農が必要。
 畜産業者による地場産品販売所の構想があり、一層の発展が見込まれるが、経営にあたっては地域と連携した事業展開に努める。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地バンク(農地中間管理機構)の利用を促進し、担い手への農地の集約化を図る。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	32.8	%	将来の目標とする集積率
			34.3 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
農地バンクを利用しながら、集団化を目指した農地利用に取り組む。			

